



H. Yamanaka

# THE EPSOM CUP

## 第42回 エプソムカップ (GIII)

1着	2着	3着	4着	5着
本賞 43,000,000円	17,000,000円	11,000,000円	6,500,000円	4,300,000円
付加賞 651,000円	186,000円	93,000円		



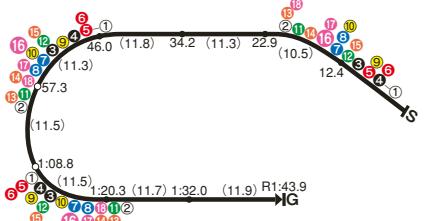
レース映像は  
コモニで見る

4歳以上 除未出走馬および未勝利馬

負担重量 57kg、牝馬ワカ減、2024.5.4以降G I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬3kg増、牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2kg増、牝馬限定G II競走またはG III競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1kg増、2024.5.3以前のG I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2kg増、牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1kg増、1着ノハナ!2着時のみ成績を除く)

2025/5/10 東京 ■ 稲垂 茂 1800字

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー	上り (600㍍)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑯	セイウンハーデス	牡6	57	幸 英明	R1:43.9	6-8-8	34.3	482(<6)	13.2⑩	橋口慎介(栗東)	111
2	④	ドゥラドーレス	牡6	57	C.ルメール	1% 16-15-14	34.1	502(<6)	3.7①	宮田伸介(美浦)	107	
3	⑥	トーセンショウワ	牡6	57	田口野大成	1% 16-16-16	34.1	482(<6)	28.9⑩	加藤征弘(美浦)	104	
4	⑧	クルゼイロドスル	牡5	57	梶山武史	アタマ 8-6-6	35.0	496(<6)	6.9④	高橋義忠(栗東)	104	
5	⑦	コントラボスト	牡5	57	田辺裕信	クビ 8-8-8	34.9	474(+2)	18.3⑧	菊池隆徳(美浦)		
6	⑯	ダノンエアズロック	牡4	57	D.レーン	1% 6-6-6	35.3	498(<2)	5.5②	堀 行宣(美浦)		
7	⑫	ディープモンスター	牡7	57	M.ディー	クビ 11-11-11	34.8	470(+6)	16.0⑦	池江泰寿(栗東)		
8	⑨	エヒト	牡8	57	古川吉洋	1% 13-11-11	35.1	464(<2)	161.9⑩	森 秀行(栗東)		
9	⑯	デビットパローズ	駆7	57	岩田望來	% 5-4-4	35.9	504(<2)	7.1⑤	上村洋行(栗東)		
10	⑯	カラテ	牡9	57	杉原誠人	% 11-11-11	35.3	542(±0)	109.6⑩	東田明士(栗東)		
11	⑪	トップナイフ	牡5	57	横山和生	% 4-3-2	36.3	492(<4)	38.2①	昆 貢(栗東)		
12	⑮	コレベティートル	駆5	57	柴田裕一郎	% 14-16-16	35.2	486(-10)	385.5⑦	中竹和也(栗東)		
13	②	シュトラウス	牡4	57	北村宏司	クビ 2-1-1	36.7	524(±0)	5.7③	武井 充(美浦)		
14	⑯	キョウエイブリッサ	牡5	57	津村明秀	クビ 18-18-16	35.2	492(+4)	60.8⑫	市川康男(美浦)		
15	⑨	ラケマーダ	牡5	57	駒込克晃	3% 14-14-14	36.1	502(+6)	188.3⑩	干田潤彦(栗東)		
16	⑯	ジュニーテイク	牡4	59	藤岡佑介	% 8-8-10	36.5	488(<8)	24.6⑧	武 英智(栗東)		
17	⑯	ビーストニッシュ	牡6	58	西村太一	5 2-4-4	37.9	476(±0)	387.2⑩	堀内岳志(美浦)		
18	⑯	マイショウチクサン	牡8	57	吉田 豊	3% 1-2-2	38.8	482(+8)	110.1⑩	本田 優(栗東)		



通過タイム : 600ドル 800ドル 1000ドル 上り : 800ドル 600ドル

アニカルト

- ・幸英明騎手はエプソムC初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算49勝目
  - ・橋口慎介調教師はエプソムC初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算6勝目
  - ・シルバーステート産駒はJRA重賞通算6勝目
  - ・6歳馬の勝利は20年ダイワキヤグニーに続く通算3勝目
  - ・勝ちタイム1:43.9はコースレコードおよびレースレコード
  - ・非当選馬 1頭(レガトウス)
  - ・非抽選馬 2頭(オニャンコボン、グラントラムアスク、シリトホルン トウディイズザデイ)

# セイウンハーデス Seiun Hades

牡 黒鹿毛 2019.4.8生

北海道浦河町 鮫川啓一氏生産

馬主・西山茂行氏 栗東・橋口慎介厩舎

馬名意味・冠名+ギリシャ神話の冥府の神

シリバーステート 青鹿毛 2013		プロリースカツプGB系 F3-I	
ディープインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA	ウインドインハーヘIRE	
	Silver Hawk	Boubeskia	
シルヴァースカヤUSA 黒鹿毛 2001	マンハッタンカフェ 青鹿毛 1998	サンデーサイレンスUSA	サトルチエンジIRE
	ゴールドグレース 鹿毛 2002	エリンオFR	グレースウェーマン

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S 3×M3  
Hail to Reason S 5×S 5×M5 Nijinsky S 5×M5

## INTERVIEW

鮫川啓一氏(生産者)

### 我々の想像を超える能力を持った馬です

状態は良さそうに見えましたが、屈腱炎で長期休養していた馬なので少し不安な気持ちもありました。しかし、府中の長い直線を上ってくる姿やレコード勝ちのパフォーマンスには驚かされ、レース後、関係者の方々と「我々の想像を超える能力を持つた馬」だと話していました。無事であればあと数年の現役生活も、いい方向に進んでいってくれることを願っています。



S.Suzuki

3歳時にプリンシバルSを勝ち、ダービーにも出走(11着)した本馬は翌年の七夕賞で重賞初制覇。しかしさらなる飛躍を期待された矢先、屈腱炎を発症し、1年5ヶ月の休養を余儀なくされた。復帰初戦のチャレンジCは5着、続く京都記念も8着に敗れたものの、この日は休養前を上回るパフォーマンスを披露。稍重馬場でコースレコードを塗り替える快走劇を演じ、中距離界の頂点を狙う存在に躍り出た。

### 父シリバーステート

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央5戦4勝(垂水S、オーストラリアトロフィー、紫菊賞)、18年から供用  
〔代表産駒〕エイアン(ニュージーランドトロフィーGⅡ)、セイウンハーデス(本馬)、ウォーターナビレラ(ファンタジーS GⅢ)、桜花賞GⅠ2着、阪神ジュベナイルフィリーズGⅠ3着)、ランスオブカオス(チャーチルダウンズC GⅢ)、朝日杯フューチュリティS GⅠ3着)、リカンカブル(中山金杯GⅢ)、ショウナンバッシュト(札幌経オーブン・L、若葉S・L)、バトルボーン(メトロボリタンS・L)、ラヴァンダ(フローラS GⅡ2着)、コムストクロード(葵S GⅢ2着)

### 母ハイノリッジ

北海道浦河町 鮫川啓一氏生産 中央4戦0勝、地方7戦2勝  
タイガーアチーヴ(16 牝父クロフネUSA)中央10戦1勝、地方71戦13勝(名港盃2着、東海菊花賞3着)  
ペイシャノリッジ(17 牝父クロフネUSA)中央19戦3勝(騎馬特別)  
セイウンノウヒメ(18 牝父トゥザグローリー)中央21戦1勝

### セイウンハーデス

本馬(19 牝父シリバーステート)中央14戦5勝(エプソムC GⅢ、七夕賞GⅢ、プリンシバルS・L、競馬法100周年記念、新潟大賞典GⅢ2着)獲得総賞金174,035,000円  
ブルーフラム(20 牝父イスラボニータ)中央2戦0勝、地方14戦3勝  
ゲーベル(21 牝父ミッキーアイル)中央6戦0勝、地方5戦4勝⑨  
ヤマメキング(22 牝父ドレフォンUSA)中央6戦2勝⑨  
ニシノサリーナ(23 牝父シリバーステート)  
(24 流産)

### 祖母ゴールドグレース

北海道浦河町 鮫川啓一氏生産 中央0勝、地方5勝(北関東弥生賞3着)  
ヒルノマドリード(09 牝父マンハッタンカフェ)中央4勝(摩耶S、騎馬特別、木古内特別)、障害2勝、地方2勝  
トシファイブスター(10 牝父フジキセキ)中央1勝、地方4勝  
ハイノリッジ(11 前出)  
セイウンゴールド(18 牝父エピファネイア)中央1勝、地方0勝  
セイウンブラチナ(19 牝父ミッキーアイル)中央4勝(ドウラメンテC、白河特別、あやめ賞)⑨

### 曾祖母グレースウーマン

北海道浦河町 鮫川三千男氏生産 中央0勝。08年用途変更、ホッコータキオング(野路菊S 0p、デイリー杯2歳S JpⅡ 2着)の祖母

宝塚記念の目標練り上げにともない、中距離重賞の開催時期や条件が見直された今年、1984年の創設以降、原則的に6月に行われてきたエプソムCは5月に移設され、出走資格も従来の「3歳以上」から「4歳以上」に改められた。新装初年度のレースで1、2着を占めたのは、脚部不安による長期休養を乗り越えて戦列に戻ってきた2頭の6歳馬。このうち、2年前の七夕賞の覇者セイウンハーデスが一番人気で支持された菊花賞の4着馬ドウラドーレスを従え、重賞2勝目を挙げた。前走の白富士Sで久しぶりの勝利を飾った2年前の東京スポーツ杯2歳Sの覇者シユトラウスが、外から意欲的に

飛び出してきたメイショウウチタンを抑えて先手を奪取。とはいって、闘志に火がついてしまった同馬は、午前中に降った雨の影響が残るソフトな馬場(稍重)に速いラップを刻んで逃げる。東京コースでリストップを2勝、2番人気の支持を集めたダノンエアズロッケは中団馬群の外につけ、セイウンハーデスの幸英明騎手はその内を追走。ドウラドーレスは後方4番手で脚を溜め、仕掛けのタイミングを窺つた。ハイペースで飛ばしたシユトラウスは直線に向くともうひと踏ん張り、後続を突き放して押し切りを狙つたが、坂の上りで力尽きて急激に失速。一斉に襲い掛かった各馬のなかでも、とりわけ目を引いたのがセイウンハーデスの脚勢だった。幸騎手の仕掛けに鋭く反応。残り200m地点で先頭に立つとたちまちリードを広げて確勝態勢を築き、ドウラドーレスの反撃も寄せ付けずにゴールを駆け抜けた。

3歳時にプリンシバルSを勝ち、ダービーにも出走(11着)した本馬は翌年の七夕賞で重賞初制覇。しかしさらなる飛躍を期待された矢先、屈腱炎を発症し、1年5ヶ月の休養を余儀なくされた。復帰初戦のチャレンジCは5着、続く京都記念も8着に敗れたものの、この日は休養前を上回るパフォーマンスを披露。稍重馬場でコースレコードを塗り替える快走劇を演じ、中距離界

# コースレコードを塗り替える快走劇